

「三笠中学校の山田楽伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立三笠中学校

2 学年・人数

1年生（計43人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年4月20日（木）	総合的な学習の時間（本校体育館）
令和5年5月18日（木）	総合的な学習の時間（本校体育館）
令和5年5月25日（木）	総合的な学習の時間（本校体育館）
令和5年6月15日（木）	総合的な学習の時間（本校体育館・校庭）
令和5年6月29日（木）	「かさ・せこ」作り（本校体育館）
令和5年9月6日（水）	総合的な学習の時間（本校体育館・校庭）
令和5年9月7日（木）	総合的な学習の時間（本校体育館・校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月10日（日） 体育大会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

山田楽（やまだがく）

(2) 由来

関ヶ原の合戦に由来し、出水郷の地頭であった山田昌巖が、出征と凱旋を盛り込んだ踊りとして鉦と太鼓による舞を考案したのが始まりだと伝えられている。創始者の山田昌巖が本校校区の古里集落出身であることを由来とし、古里地区を中心に伝統継承している。

本校では、平成9年6月16日から生徒による伝承活動に取り組み、今年で19年目になる。1年生が毎年、山田楽保存会（山田勝氏）から学び、体育大会や地域や市の行事で披露している。

(3) 構成等

鉦、大太鼓、小太鼓、妙八（めはち）で構成されており、掛け声をかけて、山跳びを行いながら踊る。

衣装は、鉦は黒のかすりに足袋、大太鼓は飾りを付けた「かさ」、法被に紅白のたすき、手甲（てこう）、脚絆（けはん）、わらじを身に付ける。小太鼓は背中に紙飾りをつけた三本の竹わくでできた「せこ」を背負い、法被を着て、手甲、脚絆、わらじを身に付けている。妙八は黒のかすりに手甲、脚絆、紫の布を頭に巻き長く垂らす。

5 保存会や地域との連携の具体

(1) 年間に数回の山田楽保存会による指導を受けている。

(2) 本校に入学する生徒のうち、脇本小学校卒業生は、小学校でも伝承活動として取り組んでいる。平成28年度より、本校に入学してくる折多小学校の児

童も夏休みに脇本小学校の児童と合同練習を行うようになった。

- (3) 平成27年度より県立鶴翔高等学校で山田楽の伝承事業が始まり、本校出身者が中心となって活躍している。
- (4) 古里区では、地域の保存会により山田楽の伝承活動が行われているが、古里区に住む本校生徒は保護者と練習に参加するなど、伝承活動を行っており、高校に進学後も伝承活動の中心として活躍している。
- (5) 太鼓や大太鼓が着る法被は、大漁旗などを保護者が縫ったものである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 大太鼓の「かさ」につける飾りと小太鼓が背負う「せこ」は、毎年、山田楽保存会の指導のもと、生徒と保護者が一緒に作成している。
- (2) 脇本小学校と連携しながら伝承に取り組んでおり、消耗していたり足りなくなったりしている小道具や衣装などをお互いに貸し借りで補充し合っている。
- (3) 夏季休業中に脇本小学校と折多小学校で山田楽の伝承活動の交流活動を行ったことで中学生になったときの習熟の差や戸惑いが解消できている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【保護者と一緒に「かさ」「せこ」作り】



【体育大会での発表の様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 山田楽保存会の御尽力により、地域に根付いた活動となっている。
- 小学校での合同練習がコロナ禍で思うように実施できなかったが、生徒は互いに教えあう姿がみられ、生徒間の交流が深められている。
- 地域の指導者は高齢となり、今後の生徒への指導について、後任の選定も念頭に置いておく必要がある。令和3年度に指導者が1人となった。
- 保護者ととともに活動（衣装の着付け等）をすることで、普段味わえない親子の絆を感じることができた。
- 体育館や校庭での夏場の練習は大変であったが、新型コロナウイルスや熱中症の対策を施しながら、充実した練習ができた。
- 開会式（オープニングセレモニー）の中での実施となった。早朝から「かさ・せこ」等の着付けの準備となったが、保護者をはじめ指導員の方々の協力で滞りなく実施できた。
- 道具や着衣の劣化があり、今年度は法被や帯紐を新調した。法被に関しては、材料となる鯉のぼりの生地を集めるところからはじめ、縫製などで保護者や地域の方々の協力を得て、何とか新調できた。